

日本パブリックリレーションズ協会 会員誌



2023 年 1 月号

NO. 347

T O P I C S

理事長新年挨拶

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 理事長 牧口 征弘

MESSAGE P4

「PRアワードグランプリ 2022」審査員長講評と受賞者からのコメント

ATTENTION P5

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6 丁目 2 番 31 号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <https://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島 2-1-27 桜橋千代田ビル 3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人: 牧口 征弘

1月号目次

1月～2月のスケジュール	——	2
MESSAGE(メッセージ)	理事長新年挨拶	—— 4
ATTENTION(お知らせ)	「PRアワードグランプリ2022」審査員長講評と受賞者からのコメント	—— 5
〃	新春PRフォーラム2023開催案内	—— 9
〃	マーケティングPR集中講座	—— 10
〃	一次試験締切迫る	—— 11
BULLETIN(活動報告)	第48回「PRスキル研究会」開催レポート(会員限定)	—— 12
REPORT(レポート)	第223回定例研究会(正会員・個人会員限定)	—— 13
協会掲載記事	PRSJ in Media	—— 14
事務局だより		—— 15

1月～2月スケジュール

【オンライン】

PRプランニング講座

日 時 : 11月22日(火)～1月16日(月)
 テーマ : トライプとストーリーで考える令和の#PR発想術
 ～ 社会課題の解決をめざすPRプランニングのポイント ～
 講 師 : 株式会社マテリアル ブランドプロデュース局 シニアマネージャー
 西野夕季子氏

【オンライン】

グローバル・コミュニケーション講座

日 時 : 12月15日(木)～2月6日(月)
 テーマ : 京セラのグローバル・コミュニケーション活動
 ～ 広報室のミッションと取り組み～
 講 師 : 京セラ株式会社
 執行役員 広報室長兼ダイバーシティ推進室長 吉川英里氏

【国際文化会館+オンライン】

新春 PR フォーラム 2023

日 時 : 2023年1月19日(木)16:00～
 会 場 : 国際文化会館及びオンライン配信

2023 年新春フォーラム関西

新春 PR フォーラム 2023

日 時 : 1月27日(金) 17:30～19:00
 会 場 : 中央電気倶楽部511号室
 テーマ : 「2023年の世界と日本」
 講 師 : 同志社大学法学部教授 村田晃嗣氏

【オンライン】

マーケティングPR集中講座

日 時 : 1月下旬開講予定
 テーマ : マーケティングPRの新潮流～PR担当者に求められる新たなアプローチ～
 講 師 : 株式会社博報堂 財田恵里氏
 株式会社スパイスボックス 森竹アル氏
 株式会社電通PRコンサルティング 岩澤 俊之 氏・小川裕介氏

【ハイブリッド開催】

第 41 回 広報ゼミ

日 時 : 2月2日(木)16:30～18:00
 会 場 : 近畿大学東京センター及び Zoom ミーティング
 テーマ : 広報パーソンの魅力向上委員会～キャリア開拓の先駆者から学ぶ～
 講 師 : 株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ 経営企画部長
 飾森亜樹子氏
 シダックス株式会社 広報室長 永井正太郎氏

1月～2月の理事会・委員会・ 部会スケジュール

定例理事会	(1 月度)	日 時	: 1 月 12 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: 霞会館+オンライン	
	(2 月度)	日 時	: 2 月 9 日 (木)	16:00～17:30
		会 場	: 霞会館+オンライン	
教育委員会	(1 月度)	日 時	: 1 月 18 日 (水)	16:00～17:30
		会 場	: オンライン開催	
資格委員会	(1 月度)	日 時	: 1 月 26 日 (木)	14:00～15:30
		会 場	: ハイブリッド開催	
国際・交流委員会	(1 月度)	日 時	: 1 月 6 日 (金)	17:00～18:00
		会 場	: オンライン開催	
広報委員会	(1 月度)	日 時	: 1 月 26 日 (木)	16:00～17:00
		会 場	: オンライン開催	
顕彰委員会	(1 月度)	日 時	: 1 月 25 日 (水)	14:30～15:30
		会 場	: オンライン開催	
企業部会幹事会	(1 月度)	日 時	: 1 月 5 日 (木)	17:00～18:00
		会 場	: オンライン開催	
PR業部会幹事会	(1 月度)	日 時	: 1 月 17 日 (火)	16:00～17:00
		会 場	: オンライン開催	

理事長新年挨拶

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事長 牧口 征弘

新年あけましておめでとうございます。皆様にとって幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、話は変わりますが、昨年末に東京から九州への移動をしました。帰省のためです。しかも移動のピークと言われる12月29日。手段は新幹線です。

御想像に難くなく、車内は終始満席。途中停車駅で席が空いても、すぐにまた別のお客さんがその席を占めるという状態で、改めて、新幹線の座席予約システムの秀逸さに感心したものです。

そのような状況ですから、周囲に座る人たちは実に様々です。家族連れの中にビジネス客が少々混じり、一人田舎に帰る若者たちもちらほら。それも、入れ替わり立ち代わりということになるので、見ず知らずの人間同士が多々混交しているわけです。

そんな中思い出したのは、この歌です。

「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関」

小倉百人一首の中の蟬丸による作です。

思い起こせば、人は昔からこのようにして、知らない者同士が行き交い、お互いの姿を眺め見たり、会話の端々を耳にしたりしながら、日常とは異なる刺激を取り込んで、自らの想像力を膨らましつつ暮らしてきたのではないのでしょうか。

そう考えると、混雑した車内も、苦ばかりではないと思えるようになってきました。

我々の携わるパブリックリレーションズの仕事の基本は、一人一人の人間です。その人間同士をつなげる。そこに成立する関係性をより良いものにしていく。更に深い絆へと昇華させていく。人と人が出会い、触れ合い、関わり合うという出来事とパブリックリレーションズの仕事とは、根っこの部分で濃い共通性があるような気がします。

新しい年は、ここ数年と異なり、人との接触が増え、そこで生まれる関係性のありかたも新たなものになる可能性があります。そういった環境下で、パブリックリレーションズの仕事の役割についても、期待が改まることは必至です。

当協会も、皆様の御期待に応えるべく、事業を進めて参ります。引き続き、なお一層の御支援を賜れば幸いに存じます。

末筆となりましたが、本年もよろしくお願いいたします。

「PRアワードグランプリ2022」 審査員長講評と受賞者からのコメント

＜本田 哲也・審査員長の講評コメント＞

今年のPRアワードグランプリでまず喜ばしかったことは、過去最高タイとなる107件のエントリーをいただいたことです。これはひとえに、ここまで本アワードに関わってきた皆様のご尽力の賜物であるとともに、日本社会におけるパブリックリレーションズへの理解と関心が進み多様な取り組みが生まれていることの証でもあるでしょう。

審査員長として、今年は、(規定の審査クライテリアに加えて)以下の3つの視座を示させていただきます。

1、「パーパス(社会的存在意義)」はあるか? : 社会に向き合った、社会的な意義のある活動になっているか。

2、「自分(たち)らしさ」が感じられるか? : 当該企業/ブランドがその活動をするオーセンティシティ(正当性・真正性)があるか。

3、「巻き込む力」は発揮されたか? : 多様なステークホルダーを巻き込み、共創が起こるような設計がなされ、活動の持続性につながっているか。

本年のエントリーのレベルは高く、とりわけ最終審査に進まれた7つのエントリーにおいては、そのほとんどがこれらの観点を十分に満たしていたと思います。中でも、グランプリに輝きました『共助×共創による、これからの公共サービスの実現～マイカー乗り合い交通「ノッカル」挑戦の3年～』では、富山県朝日町の現代日本を象徴する社会課題に対し、博報堂らしい「生活者発想」が発揮された事業開発であり、地域住民はもとより既存の交通事業者などマルチステークホルダーの巻き込みも成されていました。

パブリックリレーションズは実践的な活動であると同時に、ひとつの「発想法」だとも言えます。商品や事業をPRのノウハウで話題化させ成果を出すのも重要なが、そもそもPR発想が“組み込まれた”事業開発や取り組みが、年々増えている印象です。それだけ審査の議論もより多角的に行う必要がありますが、何よりダイナミックな取り組みが生まれることは意義深く、嬉しいことです。あらためて受賞された企業・組織団体の皆様に敬意を表し、これからも日本のすべてのパブリックリレーションズの取り組みが素晴らしい成果を生むことを願っています。

<受賞者コメント>

グランプリ：受賞エントリー（1件）

■共助×共創による、これからの公共サービスの実現

～マイカー乗り合い交通「ノッカル」挑戦の3年～

■エントリー会社／事業主体：富山県朝日町/（株）博報堂

■コメント：事業を通じて私たちが気づいたこと。それは、日本人が大切にする文化＝お互いさまの精神です。この不透明な時代、引き続きみんな未来を創る事業に取り組んでゆく所存です。



ゴールド：受賞エントリー（3件、エントリー登録順）

■クックパッド ウクライナ人道支援

「#powerofcooking 私たちは料理でつながろう」プロジェクト

エントリー会社／事業主体：クックパッド(株)

コメント：世界中のクックパッドユーザー、メディア各社、ご参加の自治体・企業、そしてウクライナの方々のあたたかさ感謝しております。



■あらゆる人の“したい暮らし”を実現する

「FRIENDLY DOOR」プロジェクト

エントリー会社／事業主体：（株）LIFULL

コメント：私どもの活動を評価いただき、誠に光栄に存じます。「今後に期待」という有難いお言葉に恥じぬよう、邁進いたします。



■社長のおごり自販機 PR

エントリー会社／事業主体：

サントリー食品インターナショナル(株)

コメント：金賞いただきありがとうございます。PRの視点をサービス開発の上流から盛り込むことが重要だと感じました。



シルバー：受賞エントリー（3件、エントリー登録順）

- ブランドを社会発想で価値化し、仲間を巻き込むPRコンテンツに！
「人にやさしくなるゲーム」

エントリー会社：(株)博報堂

事業主体：クラシエ薬品(株)

コメント：PR発想で企画することで、たとえ小さなコンテンツであっても社会を少しでもよくすることができるかもしれない。そんな希望を感じることができる受賞を大変うれしく思っています。有難うございます。



- 飲めない人・飲める人含めた飲みの多様性実現へ！
飲めない人が主役のバー「SUMADORI-BAR-SHIBUYA」

エントリー会社：(株)電通

事業主体：アサヒビール(株)/スマドリ(株)

コメント：この度は光栄な賞を頂き、有難うございます。これからも飲めない人も飲める人も楽しく共生できる社会を目指していきます。



- ～男性が当たり前に育休を取得できる世の中を目指して～
積水ハウス「男性育休プロジェクト」

エントリー会社：(株)電通 PR コンサルティング

事業主体：積水ハウス(株)

コメント：4年間の活動の集大成としてプロジェクトを評価いただきうれしく思います。今後も育休取得推進に貢献していけたらと思います。



ブロンズ：受賞エントリー（8件、エントリー登録順）

- 新型コロナウイルスで苦しむ近江牛生産者を救いたい。芸術的なギフトを開発！

エントリー会社：面白法人カヤック

事業主体：(株)ひょうたんや

コメント：日本三大和牛のひとつ「近江牛」を、少しでも多くの方に知ってもらえたら嬉しいです。これからも新しい挑戦をしていきたいと思っています。

- 「#介護脱毛」 概念創出・命名から現在まで6年の軌跡

エントリー会社／事業主体：医療脱毛専門院「リゼクリニック」※系列に「メンズリゼ」

コメント：「#介護脱毛」誕生からこれまでの取り組みに対し、PRとして高くご評価いただいたことを光栄に思います。

リゼ広報部一同、より一層精進してまいります。

- 蚊から未来のいのちを守る#GUARD OUR FUTURE プロジェクト

～共創者を募るナラティブアプローチ

エントリー会社／事業主体：花王(株)

コメント：今後も、社会の課題に対してともに取り組む仲間を増やしていけるよう、知恵を絞り心を込めてPR活動をしてまいります。

- メルカリ Shops「3D シャッター店舗 in 渋谷」

エントリー会社：(株)マテリアル 事業主体：(株)ソウゾウ

コメント：栄誉ある賞をいただき、大変光栄です。

今後も誰一人取り残さない温かいECを目指して「メルカリ Shops」を育てていきたいと思っています。

- 小難しい会社情報を柔らかくして、多くの人に興味を持ってもらいたい。

『もしも、令和ギャルがカヤックの決算説明会資料をつくったら…』

エントリー会社／事業主体：面白法人カヤック

コメント：超一かわいい賞もらえて、とりあえずうれほにです♥（意味：このような賞をいただけて、大変光栄に思います）

- ナプキンがトイレで受け取れる体験を当たり前にしていく共創実験

「トレルナプロジェクト」

エントリー会社：(株)プラチナム/(株)コネル 事業主体：(株)ネクイノ

コメント：実証実験段階にも関わらず、このような賞をいただき光栄です。来年の本格ローンチもご注目ください！

- 空飛ぶクルマのスタートアップが、社会から期待される企業になるためのチャレンジ

エントリー会社／事業主体：(株)SkyDrive

コメント：PR活動を通じて「空飛ぶクルマ」への期待、そして多くの応援を頂きました。引き続き励みたいと思います。

- ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

「ストレス買取センター」～あなたのストレス買い取ります～

エントリー会社／事業主体：(同)ユー・エス・ジェイ

コメント：これからもストレスが溜まった時は、ぜひUSJへ！突き抜けた興奮と感動を通じ、皆さんに超元気をお届けします！



再掲載

「新春PRフォーラム 2023」開催のお知らせ 2023 年 1 月 19 日(木)16:00 からハイブリッド開催

協会では、毎年 1 月に「新春PRフォーラム」を開催してきましたが、今年度は、国際文化会館での会場開催とオンライン配信のハイブリッド開催で実施することとなりました。

第 1 部は特別講演として、早稲田大学教授 中林美恵子氏に「激動する国際秩序：中間選挙後の米国内政・日米関係」をテーマにご講演いただきます。

第 2 部は日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」「シチズン・オブ・ザ・イヤー」受賞者発表、選考理由の紹介、受賞者コメントの紹介を行います。

PR大賞受賞者、特別講演等の詳細やお申込みについては今後協会の Web サイトと、メールを通じてご案内いたします。

新年でご多忙のことと存じますが、会員の皆さまの積極的なご参加をお待ちしております。

記

■開催日時：2023 年 1 月 19 日（木） 16：00～18：15（予定）

■開催方法：国際文化会館での会場開催及びオンライン

■場所：国際文化会館「岩崎小彌太記念ホール」

東京都港区六本木 5-11-16

TEL：03-3470-4611

会場地図：<http://www.i-house.or.jp/access.html>

■実施内容：

□第一部：特別講演 16：00～17：30

講師：早稲田大学教授 中林美恵子氏

テーマ：激動する国際秩序：中間選挙後の米国内政・日米関係

□第二部：2022 年度日本PR大賞のご紹介 17：45～18：15

－ 「パーソン・オブ・ザ・イヤー」

－ 「シチズン・オブ・ザ・イヤー」

■参加方法及び会費：

・会場参加（60 名限定 先着） 1 名 4,000 円

・オンライン受講（会員のみ 100 名限定 先着） 1 名 2,000 円

※クレジットカードによるお支払いをお願いいたします。なお、PRSJ 正会員企業・団体にお勤めの方は、請求書による銀行振込もご利用になれます。

■ 注意事項

※新型コロナウイルス感染拡大等、諸般の事情によりオンラインのみの開催とさせていただきます。

パブリックリレーションズ実務講座 2022

「マーケティングPR集中講座」を1月下旬開講 ～「マーケティングPRの新潮流」～

教 育 委 員 会

協会では、PR業務に経験の深い中堅実務者を対象に、「マーケティングPR集中講座『マーケティングPRの新潮流～PR担当者に求められる新たなアプローチ』」を1月下旬に開講します。

製品やサービスの市場導入、普及を目的として、消費者、顧客の信頼と支持の獲得を課題とするマーケティングPR。PR担当者にとっては、最も重要な仕事のひとつです。

かつては、メディア露出をねらうパブリシティを中心として、多くの企業がマーケティングの一環として位置付け取組みを積極的に進めていました。しかしSNSが広く生活者に普及、またモノやサービスが溢れコモディティ化しそれらに関する膨大な情報が流通する近年では、マスメディアを通じた情報発信により商品・サービスについて市場に知らせるだけでは、もはや効果を望むべくもありません。

1990年代半ば以降におけるインターネットの発達を背景としたメディア環境の変化、また生活者の価値観、生活スタイルの多様化を背景として、マーケティングPRの考え方や手法も、さまざまに提案されてきました。たとえば、多様なメディアを組み合わせ統合的な活用をより効果をあげようとする方法、また商品普及の背景となる社会的な雰囲気作りを戦略的に追求する方法などが提案され、多くの企業においてそれらに基づく組みが模索されています。

そして2020年以降は新型コロナウイルスの流行を契機として消費をめぐる社会環境が大きく変化するなか、企業には事業を通じSDGsや社会課題への対応が問われ、さらに生活者の価値観、消費指向の多様化がいつそう進展する今では、もはや今までの考え方や手法にも行き詰まりみられることとなりました。すなわち、マーケティングPRにも、これまでにない新たなアプローチが求められているのです。

これからのマーケティングPRを考える本講座。PR担当者に求められる新たなアプローチについて、以下の3講座で解説します。

講座の詳細、受講申込みについては、協会Webの講座ページでご案内します（1月下旬公開）。

■講座と講師

内 容	講座タイトル	講 師
講座1	「これからのマーケティングPR New Marketing PR～統合マーケティングは価値 作りの時代へ」	株式会社博報堂 PR局プランニング1部 PRディレクター コンテキストデザイナー 財田恵里 氏
講座2	「トライブマーケティングとPRの役割 n=1 からソーシャルマスへ～これからのPR」	株式会社スパイスボックス 取締役 副社長／事業統括責任者 森竹アル 氏
講座3	「社会課題起点のマーケティングPR 課題設定の考え方～電通PRC流メソッド」	株式会社電通PRコンサルティング 統合コミュニケーション局 コミュニケーション デザイン部 クリエイティブ 小川裕介 氏 PRプランナー 岩澤俊之 氏

(事務局 真部)

PRプランナー資格認定制度／検定試験

第33回1次試験 申込み締切り迫る！

仮申込みは1月27日(金)まで

－試験期間は、2月11日(土)～26日(日)まで－

資格委員会

2022年度後期（第33回）1次試験のお申込み受付を12月1日（木）より開始しました。

第33回1次試験はCBT方式で、試験期間は2023年2月11日（土）～2月26日（日）の16日間で実施します。本1次試験は広報・PRに関する基本的な知識を問う出題となり、これまでに14,200名が受験し、10,631名が合格しております。

仮申込み期間が間もなく終了いたしますので、受験をご検討の方はお早めにお申込みください。

- 全国に開設されたテストセンターで、PCを使って受験していただきます。
- 16日間の試験期間で、ご都合のよい日時・会場を選択できます。
- 受験料のお支払いはクレジットカード払い、コンビニ払い、Pay-easy（ネットバンキング）からお選びください。（手数料は無料です）
- 今回は定員の制限なくお申込み可能ですが、ご希望の日時・会場が先約で埋まってしまう場合もありますので、お早めにお申込みください。

【1次試験 お申込みから合否通知までの流れ】



【PRプランナー資格認定制度／検定制度 第33回1次試験 実施概要】

試験期間	2023年2月11日（土）～2月26日（日）
仮申込み期間	2022年12月1日（木）正午～2023年1月27日（金）23:59まで ※PRプランナー資格制度 Web サイトでのお申込みとなります。 （本申込に必要な受験コードを取得）
本申込み期間	2022年12月1日（木）正午～2023年2月3日（金）23:59まで ※CBTS Web サイトにユーザー登録後、同サイトでの本申込みとなります。 （受験日時・会場選択、受験料のお支払い）
合 否 発 表	2023年3月8日（水）正午
試験出題数／試験時間	50問／80分
合 格 基 準	全出題数に対して正答率70%以上で合格
対 応 公 式 テ キ ス ト	広報・PR概説（2022年度版）

試験スケジュールにつきましては、変更する可能性もございますので、下記のPRプランナー資格制度 Web サイトでご確認くださいよう、お願い申し上げます。

PRプランナー資格制度 Web サイト：<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>



会員限定**第 48 回「PRスキル研究会」開催レポート
ヤングカンヌ日本代表と審査員から学ぶ、コミュニケーションアイデアの生み方****P R 業 部 会**

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会（PRSJ）では、PR業に携わる方のPR業務ならびにコミュニケーションスキルの向上を目的とし、“明日の仕事から使える知識を身につける”をコンセプトに「PRスキル研究会」を年に3～4回開催しています。幅広い業界から講師をお招きし、研修だけでなく意見交換の場としても活用できると、毎回好評を博しています。

第48回「PRスキル研究会」は「ヤングカンヌ日本代表と審査員から学ぶコミュニケーションアイデアの生み方」をテーマに、2022年11月9日（水）にオンライン形式で開催しました。株式会社 井之上パブリックリレーションズの尾上玲円奈氏、株式会社 電通PR コンサルティングの佐藤佑紀氏 森光菜子氏をゲストにお呼びし、モデレーターは共同ピーアール株式会社の松川和正氏が務めました。

正会員・個人会員限定**第223回定例研究会****読売新聞の経済報道****～ニュースの裏面を読み解く経済部の紙面作り～**

**講 師：読売新聞東京本社
編集局経済部長
小野田徹史氏**

第223回定例研究会は、12月14日（水）オンラインで開催しました。講師は読売新聞東京本社 編集局経済部長 小野田徹史氏。テーマは「読売新聞の経済報道～ニュースの裏面を読み解く経済部の紙面作り～」でした。

PRSJ in Media

●12月1日（木） 『月刊広報会議』（宣伝会議）1月号

『月刊広報会議』2023年1月号における当協会の連載コラムで、当協会が認定するPRプランナー資格の取得者累計が3000名を突破したことが報告されました。あわせて、試験の感想と試験を通じて得たものについて、合格者のひとり取材しその内容が紹介されました。そこでは、社会との間で情報を正しく伝え合う”コミュニケーション・通訳”のスキルを持つ人材の必要性が高まるなかで、顧客のニーズに寄り添った情報発信が行えるようになったなど、試験への取り組みを通じて得た率直な感想が語られています。

●12月12日（月） 『週刊企業と広告』（チャンネル）12月12日号

『週刊企業と広告』12月12日号に、当協会が「PRアワードグランプリ2022」の「グランプリ」に「共助×共創による、これからの公共サービスの実現～マイカー乗り合い交通『ノッカル』挑戦の3年～」を選出したことが掲載されました。記事ではその概要、今回のエントリーと各賞の件数もあわせて紹介されています。

●12月12日（月） 『CM通信』（ユニ通信社）No. 5666

『CM通信』12月12日号において当協会が「PRアワードグランプリ2022」の各賞を決定したことが報じられました。掲載は2ページにわたり、「PRアワードグランプリ」の目的や今回の応募件数、受賞件数をはじめとして、「グランプリ」からブロンズまでの全受賞エントリー、本田哲也審査員長の総評が紹介されています。

●『月刊広報』（日本広報協会）12月号

『月刊広報』2022年12月号における「トピックス」のページで、当協会が2022年度「PRアワードグランプリ」の受賞作品を発表したことが掲載されました。記事は1ページにわたり、「PRアワードグランプリ」の概要や今回の応募件数、「グランプリ」をはじめ「ゴールド」「シルバー」「ブロンズ」すべての受賞エントリーが紹介されています。

●12月28日（水） 『月刊ブレン』（宣伝会議）2月号

『月刊ブレン』2023年2月号における「クリエイティブニュース」のコーナーで、当協会が2022年度「PRアワードグランプリ」の受賞作品を発表したことが取り上げられました。記事では、「グランプリ」に「共助×共創による、これからの公共サービスの実現～マイカー乗り合い交通『ノッカル』挑戦の3年～」が受賞したことが、その概要とともに紹介されています。あわせて、今回は昨年を上回る107件のエントリーがあったことにも触れられています。

●12月28日（水） 『月刊宣伝会議』（宣伝会議）2月号

『月刊宣伝会議』2023年2月号における「注目ニュースは？ 広告界ニュースダイジェスト(1)」のページで、当協会が2022年度「PRアワードグランプリ」の受賞作品を発表したことが取り上げられました。記事では、グランプリに「共助×共創による、これからの公共サービスの実現～マイカー乗り合い交通『ノッカル』挑戦の3年～」が選出されたほか、ゴールド3件、シルバー3件、ブロンズ3件が決定したこと、本田哲也審査員長の講評が紹介されています。

[記事協力：株式会社内外切抜通信社]

事務局だより

会員のみなさま、あけましておめでとうございます。事務局の青田です。

この年末年始は本当に気ぜわしく、あっという間に過ぎ去った感があるのですが、みなさまはいかがでしたでしょうか？

バタバタの中でも、嬉しいトピックがいくつかありましたのでご紹介します。

■「PR アワードグランプリ 2022」の表彰式・プレゼンテーションが12/15に開催。今年も、PRに携わることの素晴らしさを再認識するとともに、共感にあふれた場になりました。

今回のエントリーは107件と過去最多タイ。このアワードがますます重要度を増しつつあることが実感されます。

エントリーや聴講で一度も参加されたことのない会員の方がいらっしゃいましたら、次回は是非ご参加されることをお奨めします。実務のヒントが満載なことは言うに及ばず、PRに身を投じている者として大きな勇気をもらうこと、間違いナシです。

■国連広報センターの根本かおる所長を講師にお迎えした国際セミナー（12/21、国際・交流委員会主管）は、申し込み 348 名、当日参加 238 名と大盛況のうちに終わりました。

SDGs は対応必須の 이슈ですので、企業部会等でも引き続き扱っていきます。

会員アンケートも予定していますので、ご注目ください。

■**コロナ禍**がいまだ先行き不透明ですが、会員みなさまの**“リアル交流への渴望”**の声が強くなってきました。私も全く同感です。

委員会や部会の正式行事としてはまだまだ慎重な対応をせざるを得ませんが、三々五々に声を掛け合って懇親することは増えてきました。新春 PR フォーラムは3年ぶりのリアル開催（ハイブリッド式）です。

今年はみなさんと直にお会いできる機会が増えることを心から望んでいます。

よろしくお願いします。

(事務局長 青田)

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、
よろしくお願いいたします。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

FAX 03-5413-2147

※禁転載